

未来に伝えたい

私たちの

集落遺産

Koniya cho

Nishikata son

Chinzei son

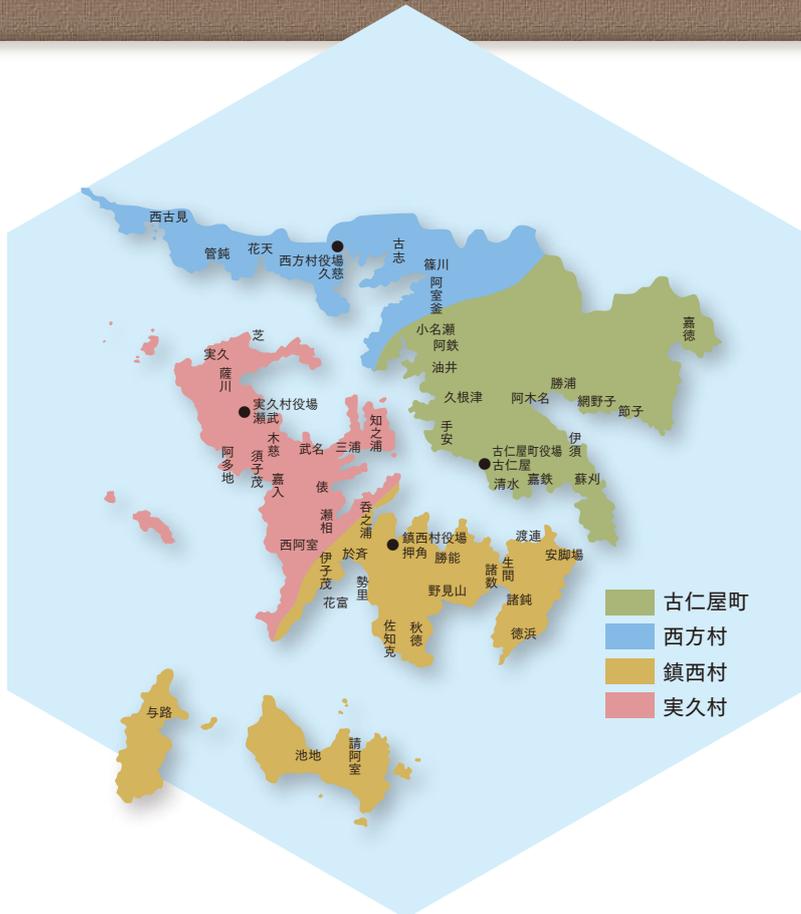
Saneku son

旧古仁屋町

旧西方村

旧鎮西村

旧実久村



古仁屋町
西方村
鎮西村
実久村

合併前(昭和11年~昭和31年)の瀬戸内町

大島海峡を中心に、奄美大島と加計呂麻島、請島、与路島の有人3島を含む瀬戸内町。昭和31年9月、町村合併促進法の適用を受けて、西方村、実久村、鎮西村、古仁屋町の4町村は対等合併して瀬戸内町となり、平成28年で町制60周年を迎えました。

瀬戸内町には現在、広大な面積に56集落があり、それぞれが特徴のある自然と文化をもっています。様々な歴史を歩んできた各集落ですが、未来に伝えたい「集落遺産」を各区長の協力のもと選んでみました。限られた紙面に収まりきらないほどの宝がありますが、その一部をご紹介します。



浜下り



高千穂神社

▶ 政治・経済の中心地

古仁屋

◎こにや

2,861
世帯
5,276
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



船津
区長/蔵良一さん



松江
区長/若林茂さん



春日
区長/吉永満さん



大湊
区長/田原清宏さん



瀬久井西
区長/盛山満朗さん



瀬久井東
区長/盛泰樹さん



宮前
区長/朝谷善明さん



高丘
区長/池田忠和さん



富山丸供養塔
昭和19年、米軍の魚雷を受けて沈没した富山丸犠牲者を供養。



なごみ坂 富山丸供養塔近くに建立。



瀬戸内町立図書館・郷土館
蔵書は10万冊を超える。



せとうち海の駅 加計呂麻島、請島、与路島へのフェリーや離島航路の拠点。



クロマグロのモニュメント
瀬戸内町はクロマグロの養殖が盛ん。

古仁屋市街地・嘉徳・節子・網野子・勝浦・阿木名・伊須・蘇刈・嘉鉄・清水・須手・手安・久根津・油井・阿鉄・小名瀬

旧古仁屋町



明治初期の瀬戸内では、藩政時代の複雑だった行政区域が地理的な面から整理された。また戸長役場制度が実施され、古仁屋に東方役場が設置された。明治末期には島嶼町村制が施行され、戸長役場は村に統合され、東方は東方村となり、大正9年に町村制が実施された。その後、昭和11年に東方村が廃されて、古仁屋町となった。市街地は、役場など主要な施設が集中しており、政治・経済の中心地となった。また、戦時中に要塞司令部などの軍の基地があったことから、戦跡が残る。風光明媚な集落が多く、今も伝統芸能が継承されている。瀬戸内町立図書館・郷土館では、文化財や歴史を紹介している。



▶災害を乗り越え祈る

伊須湾に面した集落のひとつ。国道58号線で網野子峠を下ると見えてくる集落。墓が集落の中心にある。瀬戸内町で三番目に長い勝浦川があり、探鳥会ができる。



火の用心
言い伝えでは文政9年の旧暦11月2日に大火があり、それ以来、毎日続けている。年に一回は「火災予防かまど検査」も行う。



区長／川畑 晃久さん



公民館の看板 公民館には、タレントの「ぐっさん」こと山口智充さん(母の故郷が勝浦)の手書き看板がある。



モーヤ(喪屋)
かつて水害で流された墓の骨を祀り、勝浦全体の先祖として大切にしている。

勝浦

◎かちうら

100世帯
171名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶遺跡と島唄のシマ

特に山深い集落。1974年、砂丘上に嘉徳遺跡が発見され、奄美諸島の土器編年の礎となる。付近に、海へ落ちる「篠穂の滝」がある。



集落の風景
700メートルもある海岸には、オサガメが上陸することもある。サーフィンのメッカとして知られている。



区長／徳田 博也さん

嘉徳鍋加那の墓
島唄で有名な「嘉徳鍋加那」は、神のように気高い女性だったともいわれる。海岸沿いに墓が残る。



旧嘉徳小学校の大アカギ
樹齢100年以上といわれる。

嘉徳

◎かこく

15世帯
22名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶川とともに発展。古仁屋に次ぐ大きなシマ

伊須湾に面しており、古仁屋に次いで大きな集落。水量が多く、瀬戸内町で一番長い阿木名川(全長5.5km)が流れている。



阿木名川
以前はパルプを切り出したり、水車がある水田風景が広がっており、水の都と言われていた。今でも、エビやアユがすんでいて、泳ぐことができる。



東区長／元山 敏和さん



ダム 阿木名川は、古仁屋市街地の水がめとしての役割を担っている。



水源地

阿木名

◎あぎな

333世帯
636名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶伝説と進取精神

伊須湾に面した集落。広大な山林、肥沃な農地、豊かな漁場と自然環境に恵まれ、明るくおおらかな人たちが多く、進取の精神にも富み、村の自主財源で自家発電、水道、公民館なども設置してきた。



集落の風景



区長／盛 茂喜さん



二又岩 集落のシンボルで守り神。南から流れて来た岩を美人神が白羽扇を振って、止まらせたという言い伝えがある。



旧暦3月3日などの大潮の時は、貝拾いなどが楽しめる。(写真／盛区長提供)

節子

◎せっこ

69世帯
110名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



西区長／岩井 義照さん

重野安禪寺子屋跡
阿木名に遠島された薩摩藩の城下士重野安禪は、和漢の学に優れ、私塾を開講。その教化は近村にまで及び、阿木名は学者村として知られた。同じく遠島となった西郷隆盛とも親交を温めた。日本初の文学博士。東京帝国大学名誉教授。



相撲甚句 相撲甚句は、阿木名十五夜豊年祭の伝統的出し物。



棒踊り
女性だけの棒踊りで、阿鉄から伝わったと言われる。

▶芸能と川と花いっぱいシマ

伊須湾に面した集落のひとつ。網野子バイパスが完成し、奄美市からの入り口となった。網野子峠には、伊須湾を見渡せる展望所がある。また、他集落からも川遊びに訪れるため、川の整備を欠かさず行っている。



アンドンデー 1978年12月に町無形民俗文化財指定。アンドン集落の手作り。かつて地主の家に玉女加那が生まれ、使用人が行灯を持って即興で踊ったのが始まりという。



区長／森 幸尚さん



集落の川



公民館とガジュマル
公民館でお年寄りが集まるサロンをいち早く取り入れた。前の広場は「ミヤ」呼ばれ、土俵がある。

網野子

◎あみのこ

58世帯
85名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

伊須

◎いす



阿木名～伊須間から昇る朝日
一番左の崎原島は、干潮時に歩いて渡ることができる。



集落の水源地
背後の大きな山(タキヤマ)にある。

22
世帯
32
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶藩政時代の重要港



伊須の浜
かつては、節子集落と舟での交流が盛んだった。伊須の材木を喜界島へ運んでいた時代もあった。



区長／豊原 邦雄さん

薩摩藩時代には、黒糖などを積み出すための大型の船が出入りする「居船場」の役割を果たし、港を管理する役人が住んでいた。また、一七七一年(明和8年)にオランダ船が漂着するなど、船に縁の深い集落である。

清水

◎せいすい



ティーヤ 厳島神社祭で無病息災と五穀豊穡を祈り、社殿周りを「ヒヨヒヨ」と唱えながら、ソテツの葉を1000本になるまで投げ込む。



清水公園総合体育館
瀬戸内町で一番大きな会場施設で、運動競技のほか、さまざまなイベントが行われる。

121
世帯
218
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶旧東方村時代の中心地



集落の風景
瀬戸内町海水浴場に指定されている清水海岸には、シャワー施設があり、海水浴を楽しむことができる。

旧東方時代には「方役所」が清水にあり、東方の政治経済の中心だった。厳島神社、八幡神社、権現様の3つの神社に守られている。また、みなと祭りで舟漕ぎが盛ん。女子は特に強く、今は男女ともに常勝チームである。



区長／円山 勝二さん

蘇刈

◎そかる



伊勢音頭
大正の初め種子島から嫁いできたタミ女という女性が伝えたといわれる。



ホノホシ海岸
昔、陸地の低い丘を舟を担いで越えたことから、この名前がついたとされる。

64
世帯
87
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶伝統芸能が生きるシマ



蘇刈棒踊り 大正8年頃、伊予の人から教わったといわれる。樫の木をたたきつける迫力ある踊り。



区長／隆司 寿治さん

大島海峡の東側入口、奄美大島側に位置する集落。集落を東側へ進むとホノホシ海岸やヤドリ浜など風光明媚な風景を楽しむことができる。

須手

◎すて



美しい浜
定期的に海岸沿いや河川を清掃して、集落の美化活動に力を入れている。



海沿いの広場
夏にはパーベキュー大会を行ったり、集落で女子会ピクニックも行っている。

53
世帯
91
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶町内で一番新しい集落



灯台から見た集落の風景

瀬戸内町で一番新しい集落。以前は手安集落に含まれていたが、10年程前に地理的にも離れているため、56番目の集落となった。戦時中に海軍航空隊古仁屋基地があり、水上飛行機の離発着場だったため、戦争関連の遺跡が多く残る。



区長／川畑 節子さん

嘉鉄

◎かてつ



湧き水「ヤンゴ」枯れたとはなく、また濁りもしないので、掃除を欠かさない。美人を生む水ともいわれる。



パッションフルーツ 嘉鉄は皇室献上のパッションフルーツ栽培が盛ん。2016年「かごしまの農林水産物」に認証された。

116
世帯
215
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶サンゴ礁が美しい風光明媚なシマ



集落の風景



区長／渡辺 治雄さん

集落を望む展望所からは、海がハート形に見え、マネン崎からは、サンゴ礁や大島海峡の入口を望む事ができる。そのほか、伝統芸能「嘉鉄のソーラ釣り」がある。また、嘉鉄湾付近にはミステリーサークルをつくるアマミホシゾラフグが生息している。

手安

◎てあん



慰霊塔



旧陸軍弾薬庫跡
昭和7年構築。規模、構造とも当時日本で最も優れた弾薬庫といわれた。

62
世帯
117
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶四つの権現に護られて



アッガナシグンギン
4カ所ある権現(グンギン)のひとつ。

集落内に権現様が4カ所ある。この権現様は氏神でもあり、船の恵比寿様でもある神様。旧暦9月9日には、都会に出ている家族の無病息災を祈願する年中行事がある。



区長／眞田 清郎さん

▶平家落人伝説が残るシマ

静かな入り江にある集落。県道沿いから見える深い青色の海と新緑の森の風景は特に美しい。戦前は枕木、戦後はパルプ材など林業が盛んだった。昭和50年代には真珠養殖会社ができ、海の仕事へ移ってきた。



集落の風景



区長／伊島幸蔵さん



七つ墓 平家の墓と言われる瓶で、小名瀬のシンボリック的存在。昔はカメが7個だったが、山にある5個のカメも移動させ、集落入口付近に12個ある。



海岸付近にあるマングローブ

小名瀬

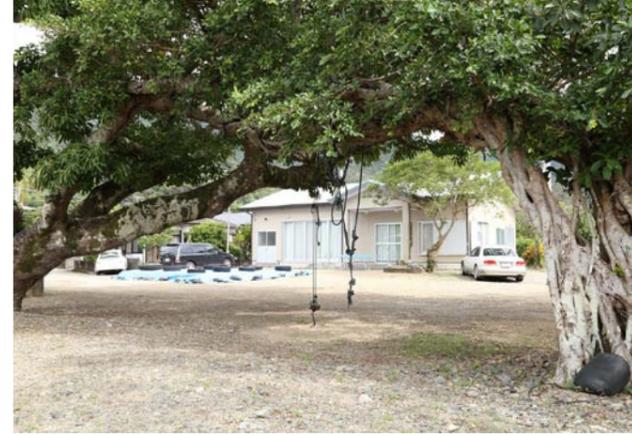
◎こなせ

11世帯
15名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶捕鯨基地だったシマ

大正時代から昭和30年代まで捕鯨の基地があった。集落入口には「くじら橋」と名付けられた橋がある。現在は、養殖漁業や電照菊の栽培が盛んになっている。集落から見える夕日は、特に夏から秋が美しい。



公民館前のガジュマルとブランコ



区長／森 正三郎さん



7～8年前に再建した神社



「奄美養魚」があり、養殖漁業が盛ん。

久根津

◎くねつ

33世帯
67名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

その他の旧古仁屋町の顔 etc.



節子にある石敢當



古仁屋港にある「幸福の鐘」



古仁屋の豊年祭(2013)



嘉鉄のソーラ釣り(2013)



網野子のムンジユル(2006)



網野子のスクテンギア(2013)



阿鉄の棒踊り(2016)



清水の模擬闘牛(2014)



嘉鉄のカマ踊り(2011)

▶稲の恵みに感謝して

瀬戸内町最高峰の油井岳(482.6m)の麓に集落がある。昔から稲作が盛んで、旧暦の8月15日は「油井の豊年踊り」が開催される。沖合に浮かぶ油井小島は、サンゴが多く、釣りなどに適している。



油井の豊年踊り 稲の恵みに感謝する豊年祭で、昭和58年に県指定無形民俗文化財となった。土俵の前に、集落の守り神である4本の自然石「イビガナシ(イバガナシ)」が祀られ、この神に奉納する行事。



区長／内田百一さん



須佐礼の海岸付近にある巨大な板根のサキシマスオウノキ。町指定天然記念物。



油井岳から見下ろした風景 展望台からは大島海峡をはさんで加計呂麻島や無人島など大パノラマが楽しめる。駐車場、トイレあり。

油井

◎ゆい

34世帯
59名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶リアス海岸の避難港として

阿鉄湾の入り組んだリアス海岸は、波穏やか。集落を中心に阿鉄川が流れ、川沿いに家々が並ぶ。突き当たりの山には、厳島神社がある。



阿鉄湾 台風時には格好の避難港として多くの船舶がやってくる。



区長／岩元勝郎さん



厳島神社 社殿までの参道は多少登りがきついですが、風情がある神社。



鶴亀踊り 昔、沖繩から伝わったとされる伝統芸能。当時と変わらない出で立ちの衣装で、頭に鶴や亀の作り物をのせて踊る。

阿鉄

◎あてつ

29世帯
53名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶大島海峡の西の入り口

奄美大島の最南西端、大島海峡の西の入り口に位置し、多くの戦跡が残る。西端には曾津高崎灯台があり、夕日の名所。明治中期の奄美で、カツオ漁業が創業された。



ナハンマ公園
沖に集落のシンボルである三連立神が見える。白砂はきめ細かく美しい。屋根付き可動式ベンチ、駐車場、トイレ、足洗い場が設置されている。



区長/宮原 伸清さん



サンゴの石垣
海風をしのぐため、家々はサンゴの石垣に守られている。



掩蓋式観測所跡
旧陸軍の観測所跡。加計呂麻島や遠く徳之島、東シナ海を一望できる。展望台が整備。

西古見

◎にしこみ

30
世帯
37
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

奄美大島の西側に位置し、薩摩藩時代には大船が入港できる居船場として西古見、花天、久慈が利用された。また、大島海峡の西の入口である西古見周辺は、旧陸軍の要塞となり、西古見周辺や水深が深い久慈港などには多くの戦跡が残る。
また明治中期より、西古見で創業されたカツオ漁業は、奄美大島各地に伝播し、活気をみせた。
最西端の曾津高崎灯台は、明治28年に奄美群島で最初に設置。点灯され、今なお、船舶が安全に航行できるよう照らし続けている。
西方地区は、大島海峡に沈む夕日の名所として知られている。

旧西方村

西古見・管鈍・花天・久慈・古志・篠川・阿室釜



▶雨ぐるみ節に歌われる

大島海峡の西側、奄美大島側に位置する。集落の前からは江仁屋離島などが見える。また、旧暦九月九日にミキ作りをしている数少ない集落の一つ。島唄の「雨ぐるみ節」に歌われることでも知られる。



集落の風景 山に囲まれ、海に開けた集落。



区長/與倉 一新さん



のんびり育てる放牧風景



管鈍から見える夕景色
江仁屋離島などがシルエットで見える。

管鈍

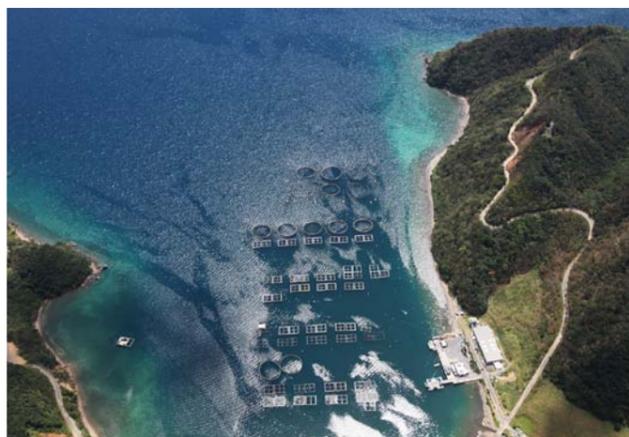
◎くだどん

19
世帯
28
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶クロマグロ養殖場で活気

旧西方村のほぼ真ん中に位置し、大島海峡を挟んで芝集落が見える。背後は冠岳。かつては、西古見同様、カツオ漁やカツオ節の生産で賑わった。現在は深い湾を利用して、近畿大学クロマグロなどの養殖場がある。



近畿大学水産研究所奄美実験場
花天の海は、クロマグロなどの養殖に適している。



区長/加納 秀八さん



集落の風景



公民館にある動物などのモニュメント

花天

◎けてん

9
世帯
12
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



▶新民謡「月の白浜」に詠う

篠川集落と隣接する。海岸を埋め立ててきたため「シムムラ」とも呼ばれた。芝家は厳島神社を阿室釜に移し、阿室釜の勝家とともに改築。旅の神ともいわれ、五穀豊穡や芝家と勝家の親睦と繁栄を祈願した。



区長／慶 忠明さん



白浜海岸
旧実久村から移住してきた人々が作った集落。日本で初めてのロシア文学者となった昇曙夢は、ここから大島高等小学西校へ通い、民謡「月の白浜」を作詞した。



旧西方村時代に建てられたバナナの倉庫跡



奄美養漁

阿室釜

◎あむろがま

25世帯
41名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶交流を生んだ久慈湾

集落の入り口となる久慈湾は、入江が美しく水深が深い。大きな船の出入りがあり、藩政時代より西の玄関口として多くの交流とともに栄え、白糖工場も造られた。また、明治期には教育伝習所学校や郵便局等の発祥の地になり、軍事施設として、レンガ造りの旧海軍給水施設等が残る。



区長／武田 政文さん



和喜公園にある千年松



ルリカケス碑 瀬戸内町2世(母親が久慈出身)の永井龍雲さんが作詞作曲した歌「ルリカケス」の歌碑。



高千穂神社から望む集落風景

久慈

◎くじ

60世帯
93名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

その他の旧西方村の顔 etc.



三連立神が見渡せる西古見の展望台



西古見の豊年祭(2008)



曾津高崎灯台



久慈の豊年祭(2010)



管鈍の豊年祭(2005ふるさと帰省ツアー)



花天の豊年祭(2006)



篠川小中学校



篠川の豊年祭(2016)



古志の土俵(2016)

▶昔から農業と島唄が盛ん

かつて海岸線が奥にあったため、現在は海より少し離れて家々がある。昔から農業が盛んな土地で、在来種の「古志大根」は、戦前人気があった。さとうきび栽培も行なわれ、現在も製糖工場が稼働している。



区長／豊山 哲志さん



さとうきび畑
昔から農業が盛んなシマ。また、最近はパッションフルーツ農家も増えている。



厳島神社
集落を見守る神社。塗装をしたばかりの鳥居がある。



古志湾

古志

◎こし

31世帯
53名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶人材と進取の精神

大島海峡の中央付近、篠川湾に位置する。江戸時代、薩摩藩に多くの黒砂糖を上納した芝家があり、代々の墓群が残る。奄美大島に2つしかなかった高等小学校などが設置され、多くの優れた人材を輩出、向学心と進取の気風に富む。



区長／金井 直利さん



深山峠より集落を見下ろす 篠川湾は静かで、台風等の避難時は船が集まる。昔は林業が盛んで製材所もあり、製材は篠川湾より船で運ばれた。また、農学校や大島高等小学校西校があった。旧西方で唯一小中学校が存続している。



芝家の墓 芝家は琉球建国の王・舜天の流れを汲み、黒砂糖の献上などで薩摩藩を支え続け、代々郷士格を与えられた。



グランドゴルフ
毎週水曜と日曜にグランドゴルフを行っている。

篠川

◎しのかわ

79世帯
144名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶ マングローブと戦跡

深緑に囲まれた奥深い入り江には、マングローブが生育し、様々な生物が生息している。入り江を利用し、戦時には特攻艇「震洋」が配備されていた。



区長／川上 榮一さん



マングローブ
奥深く入り組んだ岸辺は干満の差が大きいため、湾の西側にマングローブが群生。



深い入り江



島尾敏雄文学碑 戦時中に特攻艇の第18震洋隊が配備され、後に作家となる島尾敏雄が特攻隊長として駐屯。現在は公園化され、文学碑や墓碑のほか、格納壕と震洋艇（レプリカ）がある。

呑之浦

◎のみのうら

3世帯
5名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

瀬戸内一帯は、沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」に「せとうち」と記され、行政や文化的に交流が深かった。旧藩政時代は、東間切と西間切の二間切であったが、近代に入り幾たびか行政区画の変遷を経ている。明治41（1908）年には島嶼町村制が施行され、東方村、屋喜内村、鎮西村の三村に改変、役場はそれぞれ古仁屋、名柄、於斉に置かれた。このとき、加計呂麻島・与路島・請島からなる鎮西村は、為朝伝説にちなんで名付けられた。さらに、大正5年には、於斉にあった鎮西村役場が押角に置かれ、昭和31年に町村合併し、瀬戸内町となった。今日に至っている。

大島海峡の東側入口として安脚場を中心に旧陸軍の軍事施設がおかれたが、現在は、国の重要無形民俗文化財「諸鈍シバヤ」やホエールウォッチング、釣りのメッカとして知られている。

呑之浦・押角・勝能・諸敦・生間・渡連・安脚場・徳浜・諸鈍・野見山・秋徳・佐知克・勢里・於斉・伊子茂・花富・請阿室・池地・与路

旧鎮西村

為朝伝説に由来する



▶ 旧鎮西村の中心地

大正期から太平洋戦争後まで、旧鎮西村役場が置かれ、政治の中心地であった。押角湾の中間には、「蛇口（じゃんくち）」と呼ばれる大きな岩があり、集落の災いをのみこんで、集落を守っているといわれている。



区長／森 圭一 郎さん



集落の風景



ミヤード 照葉樹の多い森。四季折々に美しい風情が楽しめる。桜の名所でもある。



押角小中学校
現在は休校。島尾敏雄の妻、ミホが勤めていた。

押角

◎おしかく

23世帯
41名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶ 虎踊りで無病息災

大島海峡を挟んで古仁屋の真向かいにある集落。古仁屋市街地が目の前にあり、夜景の素晴らしさに癒されるが、冬には他集落と比べ一段と風が強く、寒さも増す。



区長／與島 きく代さん



虎踊り 旧暦8月15日の豊年祭で奉納される、門外不出の伝統芸能。平家の流れを汲むものといわれ、凶暴な虎を太刀や槍で退治することで、無病息災や豊作を祈願する。



土俵



ガジュマル 公民館前の昇降路のところを大門口（うふじょ）と呼び、両端に鉄棒を持った神様が立ち、集落に悪病を入れないように見張っているといわれている。

勝能

◎かちゆき

65世帯
79名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



諸数

◎しよかず

35世帯
52名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



集落の風景



スリ浜海岸
ペンションなどが並ぶ観光地。

▶ガジュマルに護られて



公民館前にある巨大ガジュマル
ガジュマルの下にバス停があり、椅子やテーブルが置かれている。ミャー(広場)にある集落のアシャゲとトネヤは、昭和30年代後半前後にブロック造りで新築された。

大島海峡の東側に位置し、生間港から西へ約1kmの、なだらかな弧を描く入り江に面する集落。スリ浜周辺は海水浴場があり、マリンスポーツなどが楽しめる。



区長/島田正吾さん

安脚場

◎あんきやば

8世帯
14名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



西側の大島海峡を望む



サンゴの水中景観
付近は、ダイビングポイントとして知られている。

▶東に太平洋、西は大島海峡



安脚場から見る大島海峡
絶景の地は軍の拠点として、大正時代から砲台や弾薬庫などが標高約100メートルの岬に作られた。一帯は、戦跡公園に整備されている。

大島海峡の東の入り口。太平洋と大島海峡を見渡せる絶景の地は、かつて日本軍の要所として軍施設が多くおかれていた。今でもその戦跡が残されている。



区長/数原菊美さん

生間

◎いけんま

40世帯
68名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



一本松
生間沖の岩の上に根付く松。



生間港近くにある大きな松

むちゃ加那神社から生間港を望む

▶加計呂麻東の玄関口



むちゃ加那の歌碑
集落の東側岬にある神社には、むちゃ加那が祀られ、歌碑がある。

大島海峡の東側に位置し、生間港とフェリー離発着の待合所がある。港がある場所を生間(大下田)、港より東側は本生間(生間)と呼ばれている。また、島唄「むちゃ加那」の母(ウラトミ)の出身集落である。



区長/里義信さん

徳浜

◎とくはま

5世帯
11名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



徳浜海岸
白く長い砂浜には、星砂や太陽の砂もある。水平線から昇る朝日や月が美しい。



「クジラの見える丘」から見た集落風景

▶美しい海岸と奇岩



ライオン岩
海岸から見える立派なたがみのライオン岩。水平線を見つめているように見える。

加計呂麻島の東南端に位置する集落。外海に面し、潮の流れは速く、砂浜は白く美しい。海岸には、ライオン岩など奇岩が多い。映画「男はつらいよ」のロケ地にもなった。ケムムン伝説塩炊き工場などがある。



区長/鞆山重子さん

渡連

◎とれん

28世帯
44名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



磨文主(まぶんしゅ)一族の墓 琉球王が諸鈍征伐に派遣した軍の副将「磨文主」一族の墓が海岸近くに現存。町内では最も古い墓(元禄6年)と記録されている。



権現様
相撲の神様で、公民館の土俵前に建立。

▶奄美史に歴史を刻む



夫婦立神
第二次大戦時、米軍が軍艦と間違っ空爆したといわれる立神で、一方が欠けている。

かつて琉球・薩摩藩統治時代は、東間切渡連方と呼ばれ、その役所があった。また「文仁演くすれ」などで、奄美史に足跡を残した集落。戦時中、岬には高射砲台が築かれ、奄美大島の防空の要だったが、現在は公園化。また、海岸はマリンスポーツなど海水浴場として人気がある。



区長/森山和雄さん

諸鈍

◎しよどん

108世帯
186名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



諸鈍長浜 弧を描くような美しい海岸線は、女性の美しい歯並びのようだと「諸鈍長浜節」に歌われた。



大屯神社
壇ノ浦で敗れた平資盛が諸鈍に渡って居城したといわれ、資盛を祀る。

▶大和と琉球の文化が会う



デイゴ並木
海岸沿いにデイゴ並木が続く。5月上旬から6月上旬が見頃。琉球交易が盛んだったころ、航海の目印のために植えたといわれている。

加計呂麻島で一番人口が多い集落。古くから農業、漁業などで栄え、今も稲作が残る。平資盛が地元と交流するために始めたといわれる「諸鈍シバヤ」は、国の重要無形民俗文化財に指定され、800有余年も継承されている。



区長/脇田敏成さん

野見山

◎のみやま

27世帯
36名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



高倉
色鮮やかな朱色が特徴の高倉がある。



製糖工場
製糖期には、昔ながらの製法で黒糖やきび酢が作られている。

▶ さとうきびと黒糖作りが盛ん



集落の風景
集落前の半円形の入江には、濃淡のある青い海にサンゴ礁が広がり、美しい砂浜には貝殻もたくさん出る。また、毎年海亀が産卵に訪れる。

カミヤマと呼ばれる森が、遠くの山の峰から、海岸近くまでせり出して、村を2つに分けている。さとうきびと黒糖作りが盛んで、集落内に3軒の製糖工場がある。



区長／嘉野 仁さん

勢里

◎せり

8世帯
12名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



まっすぐできれいな一本道



集落の畑
集落のほとんどが耕作地となっており、さとうきび畑が広がっている。

▶ 集落いっばいに広がる耕作地



集落の風景
集落の目の前には、サンゴ礁に彩られた波穏やかな美しい海が広がる。大潮の干潮時には垣ができる。

加計呂麻島の中央付近、伊子茂湾の東部に位置した集落。海岸からは、請島と与路島、徳之島を望む事ができ、一年中清流が流れている。お笑い芸人で芥川賞作家となった又吉直樹さんの母の故郷としても知られている。



区長／川島 博さん

秋徳

◎あきとく

39世帯
62名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



だいはんボトス
海沿いに巨大なボトスが繁茂している。



海辺にあるバス停の待ち合い室「いいの家」と名付けられている。

▶ さとうきび畑が広がる



集落の風景
加計呂麻島のなかでは農業が盛んな集落で、さとうきび畑が広がる。8トントラックが通る農道がある。

加計呂麻島の東側、諸鈍湾の西側に位置する。さとうきび栽培が盛んで川の水がきれいなのが自慢。秋徳小中学校がある。ガジュマルの大木もあり、集落の人々の憩いの場となっている。



区長／徳 豊志さん

於斉

◎おさい

34世帯
49名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



ガジュマルのブランコ
ロープで遊ぶことができる。



ロケ地記念碑

▶ ガジュマルの巨木に遊ぶ



海岸通りのガジュマルの巨木
集落のシンボル。映画「男はつらいよ」のロケ地に使われたこともあり、人気の観光スポットになっている。

瀬相港からトンネルを越えてすぐの集落。海岸付近にはガジュマルの大木があり、映画の撮影に使われた。島唄「長菊女」の生誕地。明治41年から大正5年まで、鎮西村の役場があった。



区長／仁科 博さん

佐知克

◎さちゆき

15世帯
19名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



きび酢の倉庫



海に面したテラスから見た景色

▶ 昔ながらのきび酢づくり



集落の風景

加計呂麻島の中央付近に位置する。さとうきび畑の中に黒糖工場があり、製糖時期には工場を見学することができる。また、佐知克の東側峠から集落を一望することができる。



区長／竹村 明美さん

伊子茂

◎いこも

64世帯
77名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)



伊子茂港にある待合所



西家の石垣
藩政時代、島役人を務めていた西家の石垣。町指定文化財。

▶ シンボルは「伊子茂まもる」くん



「伊子茂まもる」くんと伊子茂小中学校
鮮やかな青色の制服で、一年中、生徒たちを見守る姿が人気。観光スポットになっている。

加計呂麻島の中央付近、波穏やかな伊子茂湾に面した集落。伊子茂港には請島、与路島送迎の海上タクシーが待機。特別養護老人ホーム加計呂麻園や西家の石垣がある。また、縄文時代の石斧などが採集された。



区長／重岡 美津子さん

花富

◎けとみ



海辺の木陰にある涼み台
ガジュマルの樹陰が涼しげ。



西阿室と花富間の林道から見た景色

38
世帯
53
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶外海を眺めて



集落の風景
サンゴ礁に縁どられた浜辺が弧を描き、青い海が美しい。夕日の美しさも絶景。



区長／山田弘二さん

加計呂麻島の中央付近、伊子茂湾の西側に位置する。外海に面しているため、家周りは塀や石垣で守られている。昔ながらの風景が残っていることから、NHKのドラマ撮影に使われたことがある。

与路島

◎よろ



サンゴの石垣
平成21年、与路島のサンゴの石垣が「島の宝100景」に選定された。

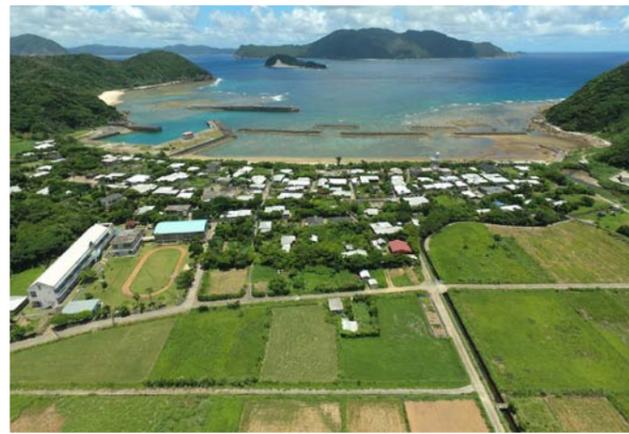


サガリバナ 7月～8月に咲き、甘い香りで魅了する。サガリバナ並木がライトアップされている。

52
世帯
80
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶サンゴの石垣が息づく



集落の風景

与路の名は、航路の水先案内という意味もある。島の宝100選にも選ばれたサンゴの石垣は、強風から集落を守り、夏は涼しく機能性と美しさを備えている。かつては琉球とのつながりも濃く、ノロ伝説のほか平家伝承や戦跡も残る。



区長／保島 豊さん

その他の旧鎮西村の顔 etc.



諸鈍シバヤ(2009)



諸鈍シバヤの禊(みそぎ)(2009)



勝能に伝わるスクテンギア(2013)



与路島の豊年祭(2008)



与路島の舟漕ぎ(2016)



請阿室ウォークラリー(2016)



三丁落鼻(サンチョバナ)／与路島



与路島の見送り(2016)



かつてノロが祈りを捧げた場所「クモディ」／与路島

請阿室

◎うけあむろ



海岸線が美しい木山島
石川道から木山島を眺めることができる。



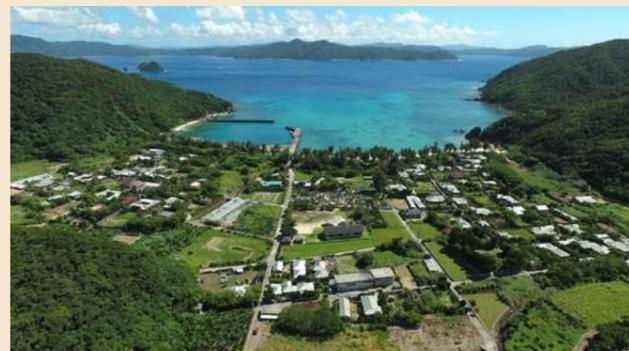
請阿室舟こぎ大会
近隣集落からも参加するイベント行事。

五穀豊稔・家内安全・家運繁栄などの御利益があるきゅら島神社より集落を望む

30
世帯
43
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶イベントで島おこし



集落の風景
目の前に加計呂麻島が見える。4月末に行う請阿室ウォークラリーは、行政の力を借りずに青年団と婦人会が行う島おこしの行事。



区長／大里正治さん

定期船「せとみ」が最初に着く集落。明治15年に集落内を基盤の目に整備したため、「小京都」ともいわれる。ニンニク栽培や畜産が盛んで、旧家の石垣や集落民が建てたきゅら島神社、キャンプ地としても知られる無人島の木山島がある。

池地

◎いけじ



大山の頂上付近にある聖地ミトチョン岳から見た風景

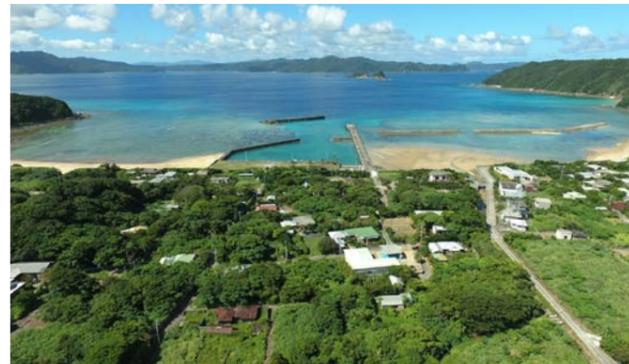


ウケユリ 古い地層の大山(398メートル)には、奄美固有種ウケユリが自生する。6月上旬開花。

35
世帯
48
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶ウケユリの咲く島



集落の風景
対岸に加計呂麻島が見える。林道「朝日台」からは日の出、林道「夕日台」からは日の入りが眺められる。島の周囲は、絶好の釣りポイント。



区長／勝 哲弘さん

請島の西の玄関口。集落は4つに分かれ、1、2区は大きな樹木があるが、3、4区は樹木が少ない。池地小学校には旧奉安殿が残り、大地域にはウケユリやウケジママルバネクワガタなどの貴重な固有種が生息している。石垣のほか、クンマ海岸などの美しい海岸がある。

美しいクンマ海岸

▶旧実久村時代の中心地

加計呂麻島の西側に位置し、前方には避難港である魚の豊富な薩川湾(大浦湾)があり、後方には霊峰弓師山がそびえる。昭和31年の町村合併までは実久村役場、郵便局、農協、漁協、駐在所などのあらゆる公共機関が存在し、行政の中心地として栄えていた。



区長／瀬戸口 豊さん



高千穂神社
集落の奥高いカミヤマに祀られている。



納骨堂
お盆の中日に集落民が納骨堂の敷地内に集まって、霊(みたま)を鎮める盃を酌み交わす。



役場跡に残る門柱
瀬武公民館の横に旧実久村役場の門柱が残る。

瀬武

◎せだけ

22
世帯
28
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶文化財が多く残る

集落の東側にある千潟には、伝統的な垣漁跡が残り、今でも「垣起こし」が行われている。また、旧木慈小学校跡地には旧奉安殿が残っているなど、文化財が多い。



区長／小田悦郎さん



垣漁跡
伝統漁法の垣漁の名残がある。旧暦5月5日の「垣起こし」では、崩れ落ちた石を積み直している。



旧木慈小学校
現在は廃校となっており、野菜畑に利用している。



奉安殿
旧木慈小学校の校庭内に残されている。

木慈

◎きし

6
世帯
8
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶神々しい巨大ガジュマル

波穏やかな薩川湾の旧実久村のほぼ中央に位置する。三方をヤマに囲まれ、耕作地に恵まれなかったため、鯉漁場に活路を見出した。また、かつては神祭りが盛んだった。



区長／小田悦郎さん



巨大ガジュマル
集落の森にある巨大ガジュマルは、武名のシンボルであり、その巨大さと神々しさで観光スポットにもなっている。



棧橋風景
ドラム缶を土台に活用した棧橋。



シマゴスガナシ
集落を守る神様。

武名

◎たけな

7
世帯
8
名

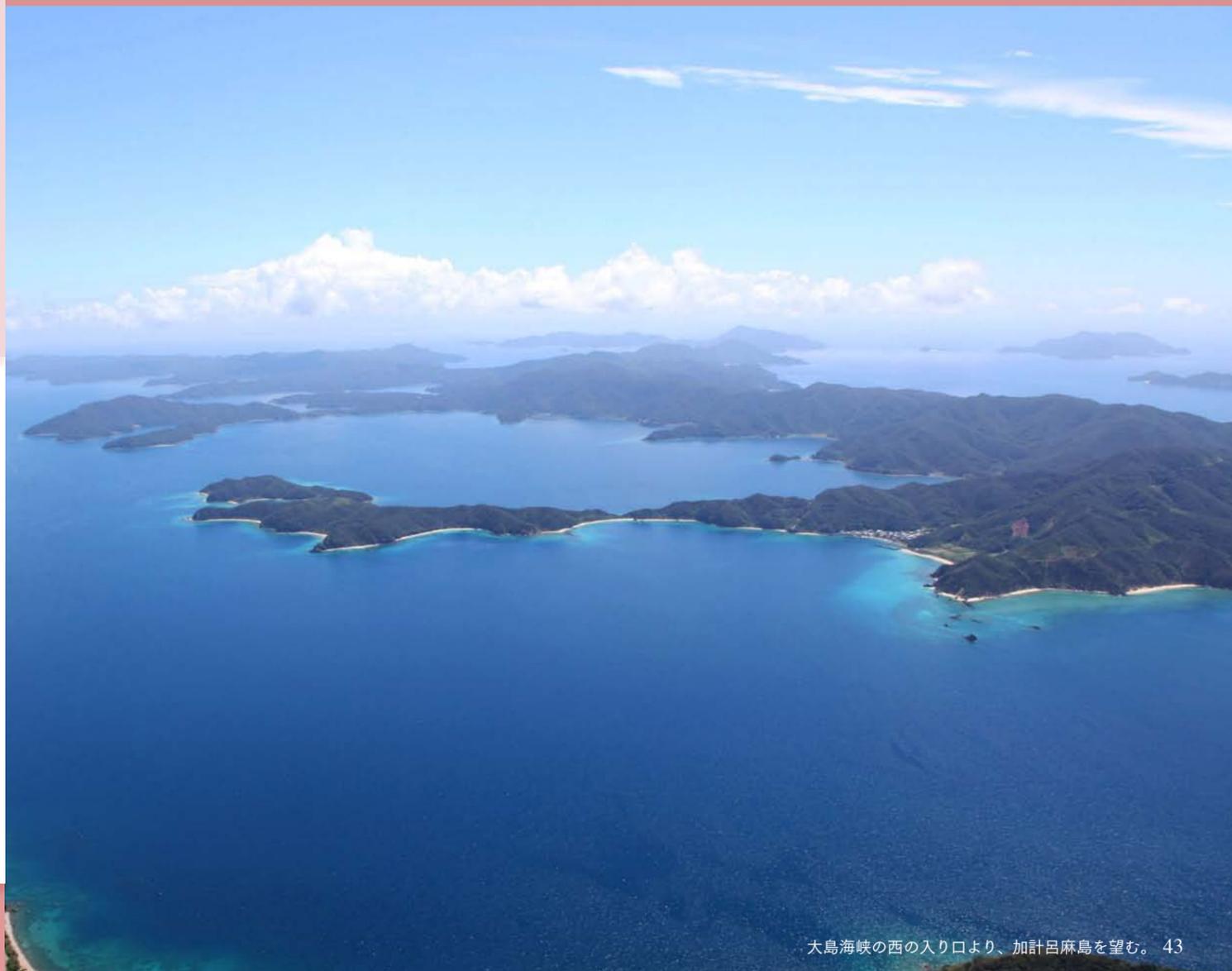
住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

瀬武・木慈・武名・三浦・知之浦・俵・瀬相・西阿室・嘉入・須子茂・阿多地・芝・実久・薩川

旧実久村



藩政期の瀬武は、西間切西方に属しており、この頃は本島側の西古見、久慈、篠川なども同じ西方にあった。
大正5年、実久村、西方村が新たに設置された。このとき実久村の役場は、瀬武に置かれたが、昭和31年の町村合併で瀬戸内町が誕生し、実久村役場は役目を終えた。
戦争中は、大島海峡の加計呂麻側西の入口として、江仁屋離島とともに、要塞化。また、天然の良港として薩川湾が戦艦の停泊港となった。付近には戦跡が多く残るが、実久三次郎伝説やノロの影響も多く残っている。現在は、真珠の養殖やクロマグロの生態研究などが行われている。



三浦

◎みうら



ガジュマル
集落の入り口付近にあるガジュマル。



アシャゲ
集落内に大きなアシャゲが残る。

11
世帯
15
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶波穏やかで水深ある三浦湾



旧海軍艦船用給水ダム跡
艦船の停泊地だったため、集落の奥には水を補給するダムが建設された。また、仲田浦との間には第17震洋隊が配備された跡がある。



区長／三浦敏則さん

深い入り江となっている三浦湾の一番北にある集落。水深が深いため、戦時中は艦船の停泊地だった。また、湾内には多様な魚介類が生息し、現在は真珠の養殖と国のクロマグロ栽培研究施設がある。

瀬相

◎せそう



権現神社



戦跡公園 港近くに、旧海軍司令部、戦闘指揮所があった。一帯は戦跡公園となり、慰霊碑が建立。

30
世帯
59
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶加計呂麻西の玄関口



集落の風景
病院や消防署、ガソリンスタンドや農産物直売所「いっちゃん市場」など島の暮らしと交通の要所となっている。加計呂麻島で唯一の信号機がある。

加計呂麻島西部の玄関口。フェリーかけろまの離着時に加計呂麻バスが集結し、車や人々の賑いをみせる。また、戦時中旧海軍の防備衛所が設置されていた。現在は、戦跡公園となり、慰霊碑が建立されている。



区長／浜田英浩さん

知之浦

◎ちのうら



港近くにある松の大木



船がつく静かな桟橋

拝所にある御神体の自然石

8
世帯
12
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶静かな入り江のかくれ里



神社
海を眺めるように立つ鎮守の鳥居。



区長／田中美知子さん

明治初期に人が住みはじめ、町制施行前は瀬武の小字だった。隠れ里のような神高いシマともいわれ、かつては製糖業やキビナゴ漁で栄えた。現在は、静かな入り江を利用して真珠養殖が行われている。

西阿室

◎にしあむろ



立神と浜辺 立神は西阿室のシンボル。特に夕日は圧巻。新民謡「加計呂麻慕情」が生まれた地でもある。



テンテン踊り 収穫を感謝し五穀豊穡を願う豊年祭。花飾りが交差する瞬間は、美しく華やか。

66
世帯
100
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶天降神(アモレガナシ)が降りた地



集落の風景 天降神(アモレガナシ)が天神の使者として最初に天降りされた地で「西のアモレ」と呼ばれていたが、災害が多発したため心霊学者に相談して、「西阿室」と改名したという。

西阿室の始まりは、西暦700年頃北から下ってきた一族と、南から上がった一族がこの地に定住し、集落を形成したと伝承される。豊年祭のテンテン踊りのほか、加計呂麻島で唯一の教会があり、マリア観音が安置。また、夕日が美しい場所として知られている。



区長／禰 昭哲さん

俵

◎ひょう



民具資料館
公民館の2階にあり、集落の歴史や文化を伝えている。



板付舟で大島海峡縦断
俵中学校恒例の行事で、集落民も応援。

42
世帯
56
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶島内唯一の二階建て公民館



俵公民館
加計呂麻島で唯一の二階建て公民館。公民館の建っている場所は、集落が始まった場所、学校と郵便局とともに、文化の中心的役割を担っている。



区長／永井秀久さん

俵集落は、大島海峡側の中央付近に位置し、その名前の示すように、かつては稲作が盛んに行われていた。民具資料館をもつ公民館は、集落のシンボルとなっている。

嘉入

◎かにゅう



集落の風景
須子茂へ行く峠道からの一望。



嘉入の滝
標高310mの嘉入山を水源とし、落差15mの滝で聖域でもあった。

11
世帯
16
名

住民基本台帳
(平成29年1月末現在)

▶一枚岩と聖なる滝



一枚岩とその沖にある岩
巨大な一枚岩は、たまたみ100畳ほどのチャート(堆積岩の一種)。

加計呂麻島の西側、与路島側に位置。俵との山道には嘉入の滝、海岸には巨大な一枚岩があり、自然の見所となっている。集落には、トネヤアシャゲなど民俗遺産が残るほか、海水を利用した塩炊き工場もある。



区長／前田龍也さん

▶実久ブルーに歴史を秘めて

大島海峡の西端入口。戦時中は砲台陣地が築かれ、江仁屋離、西古見とともに大島海峡への侵入を守っていた。弾薬庫跡など多くの戦跡が、そのまま残る。琉球王朝の祖といわれる源鎮西八郎為朝の子、実久三次郎を祀る神社などがある。



実久ブルーの海 集落の前に広がる美しい風景。砲台戦跡から望むと大島海峡の西の入り口がよく見える。



区長／安田 則夫さん



実久三次郎神社 神社には三次郎と母の墓がある。旧暦9月9日(クガツクンチ)には、神社祭が行われる。



実久棒踊り 勇壮で華麗な棒踊りが伝わる。

「夕日の丘」からの絶景 大島海峡と東シナ海が一望できる。

実久

◎さねく

16世帯 25名

住民基本台帳 (平成29年1月末現在)

▶昔ながらの集落風景



アシャゲのある公民館前 集落には東西2ヶ所のアシャゲや力石、カミミチが現存する。



区長／元永 孝則さん

かつてはカツオ漁船、鯉節工場、製糖工場があり、賑わっていた。家々は手入れの行き届いた生垣に囲まれ、トネヤやアシャゲ、カミミチ、神石、厳島神社、砂地の集落道など昔ながらの集落風景を残す。また、旧奉安殿や弥生時代の遺跡が残る。



生垣 第3回「かごしま・人・まち・デザイン賞」景观づくり部門で優秀賞受賞。



須子茂離れ 集落から約5kmの沖に浮かぶ無人島。左手は与路島。

須子茂

◎すこも

16世帯 27名

住民基本台帳 (平成29年1月末現在)

▶天然の良港、薩川湾

かつては稲作やサトウキビ栽培で栄えた集落。薩川湾は水深が深い天然の良港で、戦時中は連合艦隊の停泊地として水や物資の補給にあたった軍港。集落のなかを流れる大川沿いに、ガジュマルや石垣がある。



薩川小学校 小学校と中学校の間には、大川が流れており、風情がある。



区長／里 ゆかりさん



文化財の奉安殿 薩川小学校内にある奉安殿は、国の登録有形文化財。



薩川湾 戦時中、連合艦隊が停泊したことで知られるが、今は真珠の養殖などが行われている。

薩川

◎さつかわ

34世帯 53名

住民基本台帳 (平成29年1月末現在)

▶デイゴの大木に守られて



土俵とアシャゲ 集落の真ん中に残るアシャゲ。付近には、見事な大木のデイゴがある。加計呂麻島の原風景を感じることができる。



区長／永井 卓也さん

外海に面し、非常に波の荒いところ。浜が3つあり、集落を見守っている。沖合に夕離、須子茂離れの無人島を望む。西郷隆盛が荒波のため集落に避難し、数日間滞在したとも伝わる。また、かつては神事が盛んだった。



バスの停留所



美しいテーブルサンゴ群

阿多地

◎あだち

2世帯 3名

住民基本台帳 (平成29年1月末現在)

その他の旧実久村の顔 etc.



西阿室教会のマリア観音 (西阿室)



旧暦五月節句のガヤマキとアクマキ(木苺)



須子茂の権現祭(2013)



芝のカツオ祭(2013)



芝の女相撲甚句(2016)



実久三次郎神社祭でふるまわれるミキ(2014)

▶カツオ漁で栄えた人材のシマ



集落の風景 港から近い場所には、白砂が長く続く美しい海岸が2ヶ所ある。



区長／橋口 満廣さん

良港に恵まれ、藩政時代には、代官の駐在所となり、米や砂糖の集散地として、交易などの中心地となった。また、明治時代よりカツオ漁で栄えてきた集落で、女相撲甚句が残る。人材のシマとしても知られる。



バッケバッケ 豊年祭の前夜、クバをつけ仮面をかぶった子供たちが家々を回り、お菓子(昔は、カボチャなど)をもらう伝統行事。



昇曙夢 日本初のロシア文学者の生誕地として、胸像が建立。

芝

◎しば

58世帯 77名

住民基本台帳 (平成29年1月末現在)

瀬戸内町の歴史をたどる

瀬戸内町教育委員会
解説 = 鼎 丈太郎 / 町 健次郎

ノロの扇／ノロは、琉球王朝から任命されるとき、インバン(印判)と呼ばれる辞令書とともにこの扇を受領した。扇の表には太陽の絵を中心に二羽の鳳凰、裏には月と花が描かれている。



嘉徳遺跡発掘風景
(縄文時代)



嘉徳遺跡出土土器(縄文時代)



ゴホウラ加計呂麻島採集品
(弥生・古墳時代) 皆津崎遺跡(古代)



カムイヤキ(中世)

旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世並行期

現在、瀬戸内町で確認されている最古の遺跡は、縄文時代のもので、この時代の人々は、狩猟採集の生活を送っていました。縄文時代の遺跡である嘉徳遺跡では、土器や石器が見つかっています。中には南九州の土器もあり、古くから海を越えた交流があったことが窺えます。弥生時代、古墳時代相当期、日本全国に稲作が伝わりましたが、南西諸島では縄文時代に引き続き、狩猟採集生活が営まれていました。この時代になると九州の豪族たちが、力の象徴である南産大型巻貝(ゴホウラなど)を求めてやって来たと考えられています。瀬戸内町では、須子茂などで加工途中のゴホウラが見つかっています。

認されており、文献でも平安貴族がヤコウガイを利用していたことが記されています。こうしたヤコウガイは、皆津崎の発掘調査でも見つかっています。中世になると、南西諸島でも農耕が始まったと考えられ、強い権力を持つ首長が現れます。この頃、窯で焼かれた焼物「カムイヤキ」が生産され、南西諸島全域に流通し始めます。また、長崎県で採掘される滑石で作られた石鍋や、大陸産陶磁器も南西諸島全域で見つかるようになります。これらの遺物の動きから、当時の人々が広範囲に交流しており、南西諸島が九州・朝鮮・大陸との中継地点としての役割を果たしていたことがわかります。こうした交流は、後の琉球王国の礎となったと考えられています。(鼎 丈太郎)

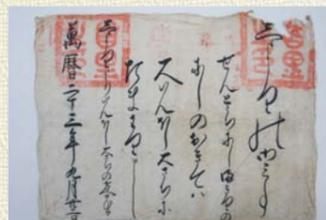
琉球王府統治時代

奄美が豪族や族長の首長を中心としていた時代から、琉球王府の統治に移り変わった時期については、『中山世鑑』の二六六年に大島が入貢したという記事と『李朝実録』に見える一四四年の説話があります。十四世紀から十六世紀初頭にかけて琉球王府が各島々から採録した歌謡集「おもろさうし」の航海を歌ったものの中には「中瀬戸内・請・与路」の地名が詠み込まれており、奄美大島南部一帯の海岸線が古くから海上交通の要所であったことを知ることができます。

五)年の西掟職任辞令書通が残されていた。現在、古志のものには所在不明となりましたが、須子茂のものは町立郷土館に重要史料として保管されています。ノロが琉球王のもとに一生のうち一度は拝謁し、役職任命の朱印、祭具をもらい受けることに伴う伝説には、諸鈍のナングモリバルとグリュバルの戦いや与路島のオアム瀬にまつわる伝説があり、これらは従者を連れて拝謁の旅に出た美人ノロが琉球王や側近の按司・船頭に見せられたことが発端となっています。ノロ祭祀は本町域では加計呂麻島北西部の久久地区を中心に続いていましたが、昭和三十一年(一九五六年)の間に急速に消滅していきましました。請島では大正期まで、与路島では昭和四十五年頃まで祭祀が行われていました。(町 健次郎)



アシャゲ(須子茂)



瀬戸内西間切西掟職任辞令書(須子茂)



ノロ祭具／ノロ祭祀では、ガラス玉、ミカキ、ハブラ玉をはじめ、様々な道具が使われた。

豪族や首長を中心とした時代

およそ八、九世紀から十三、十四世紀にかけての奄美は、豪族または族長の首長を中心としていた時代。この時代に相当する史跡は「鹿児島県遺跡地名表」によると西古見城跡、諸鈍城跡がありますが、本町には概して少ないのが特徴です。伝説では、当時の出来事として源平の南島落ちが語り継がれています。加計呂麻島・実久集落の神社に祀られている実久三次郎は、源為朝が保元の乱(一一五六)に敗れて配流先の伊豆から琉球へ渡る途次、実久に立ち寄り、同所の娘との間に生まれたと伝わっています。三次郎は、実久から対岸の西古見まで一樞で漕ぎ渡ったと伝わり、別名に「天権がなし」と呼ばれ敬われています。神社境内には、三次郎が宇検の豪傑名柄八丸と力くらべをしたときに投げた石が指形をつけて足形とともに残っています。



実久三次郎神社



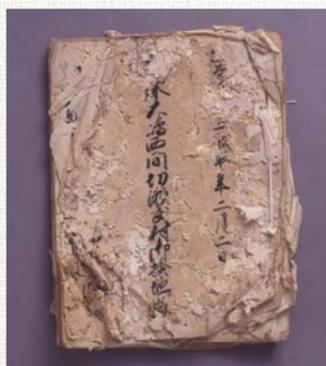
三次郎の足型が残る巨石

また西古見集落の背後の小高い山の頂上には人石(チュウイシ)と呼ばれる高さ五メートル近い大石があり、これも三次郎が投げた際に突きささったものだとされています。同じく加計呂麻島 諸鈍には壇ノ浦の合戦に敗れて南島落ちした平資盛が城を築いて居を構え、奄美大島南西部域にあたる東・西・屋喜内間切を領有したと伝えられています。諸鈍に鎮座する大屯神社は資盛を祀った神社で、境内には文政一(一一八二)年に薩摩役人によって建立された墓碑が残っています。平資盛の家来であった平宗虫他数名は、さらに与路島に渡り、大勝山に登る途中のノクラ(地名)に城を築き、源氏の追っ手を警戒していたと伝わっています。(町 健次郎)

平資盛の墓



平資盛を祀った大屯神社



琉球大嶋西間切瀬武村御検地帳／薩摩藩時代の享保十三年(1728)に瀬武村(現瀬武集落)を検地した土地台帳。



瀬武・武家、伊子茂・西家の龍槌

薩摩藩統治時代

一六〇九年に薩摩藩は琉球に侵攻しました。それ以後、奄美は藩の政策上、表向きは琉球国内とされながらも薩摩藩直轄地となりました。行政区画は、前代の琉球王国からの間切制度を踏襲しており、文化二(一八〇五)年当時の記録である『大島私考』によれば、瀬戸内一帯は、東間切の東方・渡連方、西間切の西方・実久方から成っていました。薩摩藩は、奄美に代官を派遣し、その下に地元の人材を起用した与・横目などの職を置きました。当町域出身の与人は「大島与入役順

子村の宮世恵、西古見村の統恵季、統喜、瀬武村の朝恵喜、笠利村(道之島代官記集成)によれば篠川村)の実基らに引き続いて海上交通の要所であり、『大島要文集』に奄美大島及び加計呂麻島の入港できる居船場として十九カ所があげられている内、十一カ所(西古見・花天・久慈・知之浦・深浦・伊子茂・油井・古仁屋・伊須・諸鈍・諸数)は現町域にあり、薩摩、道之島(奄美)、琉球を結ぶ上り下りの諸船が停泊し、日和を見て出航していたようです。

続記)によれば、篠川村の実雄、芝実統、芝実辰、与路島の稲恵・稲久仁、伊子茂村の西直民、福直静志、前喜志、前徳、西能悦、西直恵子、伊須村の泉長武美、清水村の当濟、諸鈍村の林前織、積福悦、阿木名村の喜祖志・富厚・喜子父・清喜子、管鈍の喜美統・喜美演・喜百桃、芝村の岡通里・都与昌、嘉徳村の清嘉通、手安村の森貞和子、薩川村の儀世恵、網野

一八三〇年には藩の財政立て直しが始まり、大島、徳之島、喜界島の三島で作られた黒糖は藩が買い上げることとなりました。嘉永三(一八五〇)年から安政二(一八三五)年の記録である『南島雑話』には、東西間切で作られた砂糖は笠利間切と並んで品質が高く、「きぬ砂糖」、「沈砂糖」ともに上であると記されています。(町 健次郎)



行政区画の変遷した近代

近代に入って瀬戸内町一帯は幾たびか行政区画の変遷を経してきました。明治六（一八七三）年秋から翌明治七年春にかけての巡視報告書である「南島誌」には西間切（西方八カ村・実久方十三カ村）、東間切（東方12カ村、渡連方十四カ村）と見えます。その後明治二十二（一八八九）年には全国的には市町村制が施行されましたが、大島郡及び川辺郡十島は市町村制施行の枠外に置かれていました。明治四十一（一九〇八）年に島嶼町村制が施行され、東方村・屋喜内村・鎮西村の三村に改編され、役場はそれぞれ古仁屋・名柄・於斉に置かれました。加計呂麻島・与路島・請島から



阿鉄上空より加計呂麻島を望む

成る鎮西村は為朝伝説にちなんで名付けられました。大正五（一九一六）年には、実久村、西方村が新たに設置され、実久村役場は瀬武に、西方村役場は久慈に、於斉にあった鎮西村役場は押角に置かれました。昭和十一（一九三六）年には、東方村は古仁屋町となり、昭和三十一年（一九五六）年には西方村、古仁屋町、鎮西村、実久村は町村合併して瀬戸内町となり、今日に至っています。
 合併時の古仁屋町長は蘇我清吉、西方村長は、金友藏、実久村長は喜人直、鎮西村長は林有沢で、初代瀬戸内町長には川井順英が就任しました。

第二次世界大戦とその戦跡

第二次世界大戦前の本町域は、戦略上適した地形であったため、日本陸軍の要塞基地となりました。明治期には、久慈に艦船への給水施設が構築されています。当時は、赤レンガ造りが特徴でした。

その後、特に大島海峡が拠点として整備され、大正期には大島海峡の東西入り口に砲台が建設されました。第二次世界大戦が勃発すると、大島

海峡は重要な南進基地となり、日本陸軍の基地が整備されるようになります。昭和十四年（一九三九）の演習で薩川湾が臨時の泊地として使用されましたが、昭和十六年（一九四一）に瀬相に大島根拠地隊が編成されると、翌年には大島防備隊が置かれ、南西諸島

における海軍の拠点となりました。当時の瀬戸内のほとんどの集落には山中や海岸に軍関係施設、陣地が築かれています。

しかし、戦況が悪化してくると、徳之島などの飛行場を防備するために、砲台の一部が撤去されます。終戦間際には、奄美群島でも空襲が増え、須手の海軍航空隊からも特攻攻撃が行われるようになりました。震洋艇も出撃準備を整えましたが、出発は遂に訪れず、昭和二十年八月十五日に終戦を迎えました。手安、安脚場、呑之浦、江仁屋離等の戦跡では、今でも当時の面影をしのぶことができます。
 （鼎丈太郎／町健次郎）



佐世保海軍軍需部大島司庫跡(明治期)



第18震洋隊震洋艇(レプリカ)格納壕跡(昭和初期)



西古見観測所跡(大正期)